

官民共創ワークショップについて

1. 背景

群馬県では、新・群馬県総合計画（ビジョン）にて、2040年までの群馬県を取り巻くさまざまな環境の変化を見通した上で、県民の幸福度の向上に向けた「目指す姿」と「実現へのロードマップ」を示しています（参考→<https://gunma-v.jp/vision/>）。当県では、人口減少や地域のつながりの希薄化、行政ニーズの多様化といったさまざまな社会的背景への対応策として、「官民共創」が鍵であると考えており、新・群馬県総合計画（ビジョン）にも「官民共創コミュニティの育成」を柱の1つとして掲げています。

2. これまでの取組

新・群馬県総合計画（ビジョン）に掲げた「官民共創コミュニティの育成」を進めるため、温泉県である本県の官民共創コミュニティづくりを、「湯けむりモデル」として温泉発生の仕組みになぞらえて表現しつつ、令和3年度から「未来共創ワークショップ」などの事業を通じて取り組んできました。

本事業では、県内を9つのエリアに分け、令和3～5年度まで3年間かけて各地域でWSを行い、官民共創コミュニティの芽を育ててきました。①県内市町村が抱える課題からテーマを選定し、市町村職員や住民、企業が参加するワークショップでその課題を構造化し、解決したい根本問題を設定して、デザイン思考で根本問題を解決するアイデア発想を行い、②最終的にワークショップの成果を、地域の未来の姿とそこに向かうアイデアが詰め込まれた「湯けむり未来図鑑」として公表する、というものです。また、アイデアを考えるだけで終わらず、地域で実装された事例もあります。

3. 令和6年度事業について

県内市町村での取組が一巡したため、今年度は県内の**企業・団体が抱える社会課題解決テーマ**にスポットを当て、下記の流れでワークショップを展開予定

ワークショップの実施イメージ（予定）

第1回

持続可能な地域のつくり方
誰一人取り残さない地域をつくるために必要なことについて、感覚的に学ぶことができる「SDGs de 地方創生 カードゲーム」を活用したワークショップを実施します。

第2回

課題の構造を整理する
テーマごとにチームに分かれ、付箋と模造紙を使用した、課題の棚卸しをするワークを行い、課題の全体感を把握します。
課題の構造図をもとに、課題が起きている状況をよりクリアにする作業を行います。

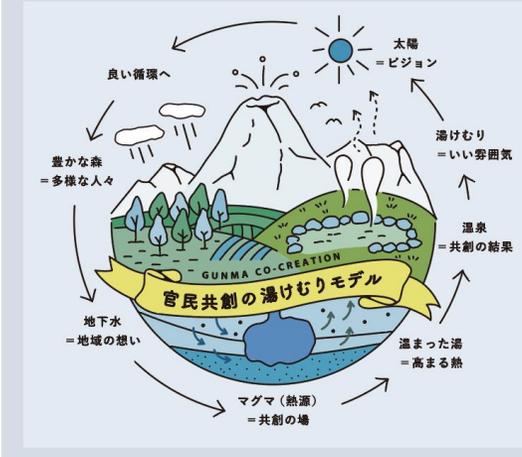
第3回

欲しい未来を描く
第2回の内容をもとに整理した課題の構造図と、その構造図から導き出したコア 이슈を解決するためのアイデアについて話し合います。

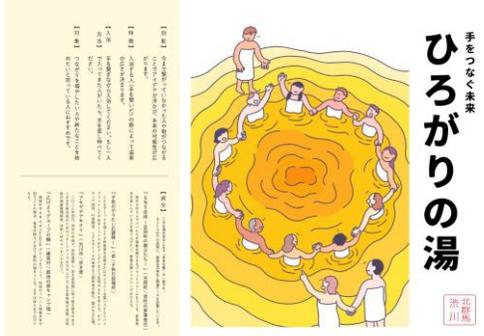
第4回

欲しい未来を実現する
プロジェクトを持続可能なものにしていくために、進め方、資金調達など、各プロジェクトを実現していくためのポイントについてチームで検討を進めます。また、ベンチマークとして実際に実証実験の準備を進めます。

官民共創の「湯けむりモデル」



“多様な人々”が集まる豊かな「森」では、地域への“想い”がじわじわと地中に染み込み「地下水」となります。地下水は、熱源（NETSUGEN）である「マグマ」に“ワークショップ”を通じてふれることで、“想い”が温められ、地上に噴出します。これが、“官民共創の取組”である「温泉」です。温泉からは、“いい雰囲気”が立ち上ります（湯けむり（湯けむりフォーラム））。そして、湯けむりは、水蒸気、雲となり、また大地に雨として降り注ぎます。この循環を持続的に生み出し、群馬県が「官民共創の“温泉郷”」となる未来に向けて、取組を進めています。



▲湯けむり未来図鑑



▲官民共創WSから生まれたアイデアの実装例（おぜのさと倶楽部／片品村の未来について考えるコミュニティ）